

(19)日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11)特許出願公開番号

特開平6-220925

(43)公開日 平成6年(1994)8月9日

(51)IntCl⁵

E 0 4 B 1/64

識別記号

A

庁内整理番号

F I

技術表示箇所

審査請求 未請求 請求項の数 1 O L (全 4 頁)

(21)出願番号 特願平5-10717

(22)出願日 平成5年(1993)1月26日

(71)出願人 000002174

積水化学工業株式会社

大阪府大阪市北区西天満2丁目4番4号

(72)発明者 近藤 賢

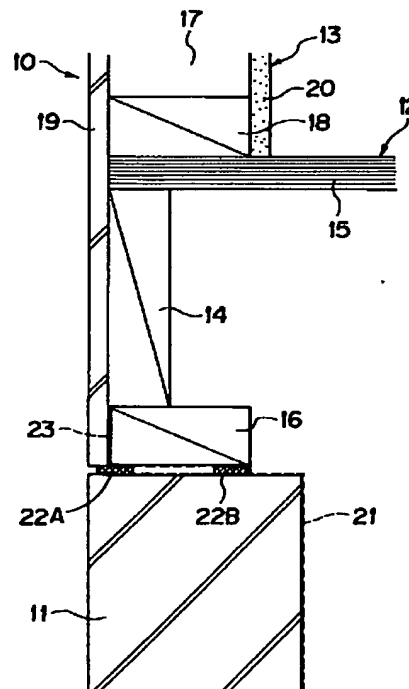
茨城県つくば市松代5-2-29-503

(54)【発明の名称】 床下防水構造

(57)【要約】

【目的】 床下防水構造において、防水シール性を向上するとともに、防水シートを隠すための施工を不要にすること。

【構成】 床下防水構造において、基礎11の天面の外側と内側に水密材22A、22Bを2重をなすように並列配置し、床パネル12の土台16と外壁面材19との間に防水シート23を挟むとともに、この防水シート23の下端部を土台16の下面に貼り、上記基礎11の上に上記床パネル12を載置してなるもの。



BEST AVAILABLE COPY

【特許請求の範囲】

【請求項1】 基礎と床パネルとの間を防水シールする床下防水構造において、基礎天面上にて基礎延在方向に連続して延びる各水密材を基礎厚み方向の外側と内側に並列状に配置し、床パネルの土台と外壁面材との間に防水シートを挟むとともに、この防水シートの下端部を該土台の下面に貼り、上記基礎の上に上記床パネルを載置してなることを特徴とする床下防水構造。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】本発明はユニット建物等に用いて好適な床下防水構造に関する。

【0002】

【従来の技術】従来、ユニット建物にあっては、実開昭61-20608号公報に記載される如く、床パネルの土台を基礎天面に載せ、この土台をアンカーボルトによって基礎に固定している。

【0003】このとき、上記ユニット建物の床下防水構造としては、床パネルの土台と外壁面材との間に防水シートを挟み、この防水シートの下端を基礎の外面に貼付けることにより、床パネルと基礎との間を防水シールすることとしている。

【0004】

【発明が解決しようとする課題】然しながら、従来技術には、下記①、②の問題点がある。

①基礎の外面に貼付けた防水シートが、経時的にはがれ、防水シール性を損なう虞れがある。

【0005】②建物の意匠上、建物外面に表われる防水シートを隠すため、床パネルにおける外壁面材の下縁に沿って土台モールを取着し、この土台モールにより上記防水シートを覆う必要がある。このことは、施工工数を多大とし、また外観デザインを損なうものとなる。

【0006】本発明は、床下防水構造において、防水シール性を向上するとともに、防水シートを隠すための施工を不要にすることを目的とする。

【0007】

【課題を解決するための手段】本発明は、基礎と床パネルとの間を防水シールする床下防水構造において、基礎天面上にて基礎延在方向に連続して延びる各水密材を基礎厚み方向の外側と内側に並列状に配置し、床パネルの土台と外壁面材との間に防水シートを挟むとともに、この防水シートの下端部を該土台の下面に貼り、上記基礎の上に上記床パネルを載置してなるようにしたものである。

【0008】

【作用】本発明によれば、下記①、②の作用がある。

①床パネルを基礎の上に載置したとき、床パネルにおける土台の下面に貼られている防水シートは、基礎上の水

密材と該土台との間に挟持されるものとなり、はがれを生ずることがない。

【0009】そして、防水シートは床パネルの土台が濡れるのを防止する。また、基礎天面上にて基礎厚み方向の外側と内側に2重をなすように並列配置される各水密材は、床パネルの土台により圧縮され、基礎の外側から土台側への水の浸入、及び基礎の内側から土台側への水の浸入を確実に防止する。従って、防水シール性を向上し得る。

10 【0010】②防水シートは基礎の外面等に表われることがない。従って、建物外面に表われた防水シートを隠すための土台モールを用いる必要がない。よって、土台モールの取着に起因する施工工数をなくし、外観デザインも向上し得る。

【0011】

【実施例】図1は第1実施例を示す模式図、図2は第1実施例の工程図、図3は建物ユニットを示す模式図、図4は第2実施例を示す模式図である。

【0012】(第1実施例)(図1、図2、図3)

20 ユニット建物は、予め工場生産された図3に示す如くの建物ユニット10を現地に輸送し、複数の建物ユニット10を基礎11上にて水平、鉛直方向に接合設置して組上げ構築される。

【0013】尚、建物ユニット10は、図3に示す如く、床パネル12と、床パネル12の周縁部に立設される壁パネル13とから構成される(図1)。

【0014】そして、床パネル12は、側根太14等により組立てた床枠組の上面に床板15を固定し、側根太14の下面に土台16を固定して構成され、この土台16をアンカーボルトにより基礎11に固定可能としている。

【0015】また、壁パネル13は、縦枠17、横枠18等により組立てた壁枠組の外面に外壁面材19を固定し、内面に内壁面材20を固定して構成される。壁パネル13が床パネル12の周縁部に立設されたとき、外壁面材19の下縁は床パネル12の外面をも覆うものとなる。

40 【0016】然るに、本実施例は、基礎11と床パネル12との間を下記(A)～(C)の如くにより防水シールする(図1、図2)。

【0017】(A) 基礎11の天面に防湿シート21を貼るとともに、この防湿シート21上にて基礎延在方向に連続して延びる2個の水密材22A、22Bを基礎厚み方向の外側と内側に2重をなすように並列配置する(図2(B))。

【0018】ここで、防湿シート21は、基礎11の内側面から天面にかけて接着され、ゴムフィルム、合成樹脂フィルム、金属箔等によって形成される。また、水密材22A、22Bは、ゴム等のバックング材により形成される。

3

【0019】(B) 床パネル12の土台16と外壁面材19との間に工場生産段階で防水シート23を挟むとともに、この防水シート23の下端部を工場生産段階で該土台16の下面に貼る(図2(A))。

【0020】ここで、防水シート23は、土台16の下面の全面に接着され、ゴムフィルム、合成樹脂フィルム、金属箔等によって形成される。

【0021】(C) 基礎11の上に建物ユニット10を据付けるに際し、基礎11の上に床パネル12を載置し、床パネル12の土台16で上記(A)の水密材22A、22Bを圧縮する(図1)。水密材22Aは土台16の外縁側下面によって圧縮され、水密材22Bは土台16の内縁側下面によって圧縮される。

【0022】以下、本実施例の作用について説明する。
①床パネル12を基礎11の上に載置したとき、床パネル12における土台16の下面に貼られている防水シート23は、基礎11上の水密材22A、22Bと該土台16との間に挟持されるものとなり、はがれを生ずることがない。

【0023】そして、防水シート23は床パネル12の土台16が濡れるのを防止する。また、基礎11の天面上にて基礎厚み方向の外側と内側に2重をなすように並列配置される各水密材22A、22Bは、床パネル12の土台16により圧縮され、基礎11の外側から土台16側への水の浸入、及び基礎11の内側から土台16側への水の浸入を確実に防止する。従って、防水シール性を向上し得る。

【0024】②防水シート23は基礎11の外面等に表わることがない。従って、建物外面に表われた防水シ

4

ートを隠すための土台モールを用いる必要がない。よって、土台モールの取着に起因する施工工数をなくし、外観デザインも向上し得る。尚、上記実施例において、防湿シート21は必須でない。

【0025】(第2実施例)(図4)

第2実施例が第1実施例と異なる点は、基礎11の天面のうち、外側寄り天面11Aの上に床パネル12を載置し、内側寄り天面11Bを外側寄り天面11Aよりも立上げたことにある。これによれば、基礎11の内側から土台16側への水の浸入をより確実に防止できる。

【0026】尚、本発明は、ユニット建物に限らず、広く一般の建物にも適用できる。

【0027】

【発明の効果】以上のように本発明によれば、床下防水構造において、防水シール性を向上するとともに、防水シートを隠すための施工を不要にすることができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】図1は第1実施例を示す模式図である。

【図2】図2は第1実施例の工程図である。

【図3】図3は建物ユニットを示す模式図である。

【図4】図4は第2実施例を示す模式図である。

【符号の説明】

11 基礎

12 床パネル

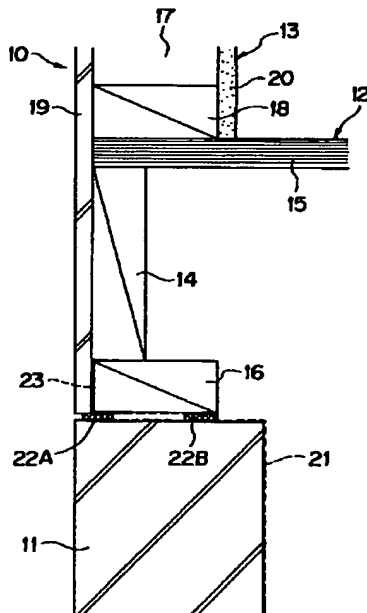
16 土台

19 外壁面材

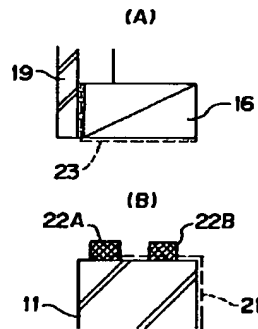
22A、22B 水密材

23 防水シート

【図1】

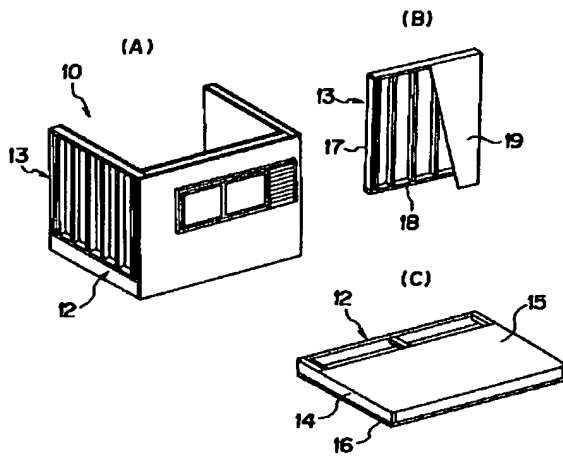


【図2】

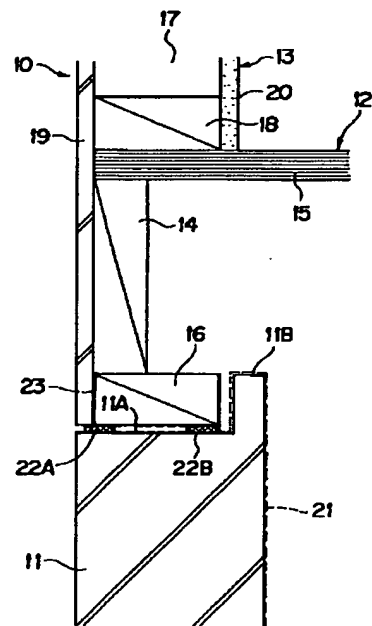


BEST AVAILABLE COPY

【図3】



【図4】



BEST AVAILABLE COPY